

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

生誕百年 木下恵介劇場

Keisuke Kinoshita Retrospective at his Centenary

2012年 9月30日(日) - 10月28日(日)

電力事情など今後の状況により急遽スケジュールが変更される可能性もございます。最新の情報は、当館ホームページ又はハローダイヤルにてご確認ください。

10月の休館日:

月曜日、10月29日(月) - 11月2日(金)、11月4日(日) - 11月5日(月)
*11月3日(土・祝)は展示室・図書室は休業です。

大ホール

開映後の入場はできません。

定員=310名(各回入替制)

料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/小・中学生100円/

障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

発券=2階受付

- 観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- 発券は各回1名につき1枚のみです。



1952-2012
60th Anniversary

東京国立近代美術館60周年を記念して、誕生日当日のご入場は無料となります(証明できるものをご提示ください)。

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo




木下恵介
生誕100年



生誕百年

木下恵介劇場



2012
10

NFCカレンダー
2012年10月号

大ホール 上映作品

生誕百年 木下恵介劇場
Keisuke Kinoshita Retrospective
at his Centenary

本年は、日本映画の黄金期を代表する巨匠であるだけでなく、テレビドラマの分野においても重要な貢献を果たした木下恵介監督(1912-1998)の生誕百年を記念する年にあたります。1933年に松竹蒲田撮影所に入社した木下は、現像・撮影パートや助監督を経て、1943年に監督第1作『花咲く港』を撮り、高い評価を受けます。以後、戦後から昭和の終わりまで、数々の名作映画を世に送り出す傍ら、テレビの世界にもいち早く進出し、多くの作品で制作・監修や演出・脚本などを務めました。

本企画は、木下の野心的な喜劇映画作品に加え、現在見る機会が少ないテレビドラマ・シリーズ枠「木下恵介アワー」(木下恵介劇場)とテレビアニメ・シリーズ「赤い鳥のころろ」を上映し、木下の忘れられた／知られざる魅力を再発見する試みです。

皆様のご来場をお待ち申し上げます。

- 制作 監修・演出 原作・原案 脚本・脚色 撮影 美術・装置 音楽 出演
- スタッフ、キャストの人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

◆木下喜劇と木下恵介アワー

「木下恵介アワー」(当初のタイトルは「木下恵介劇場」)は、1964年10月27日から1974年9月25日まで、TBS系列で毎週火曜日(のちに水曜日に変更)に放映された、30分のテレビドラマ・シリーズ枠。制作の中心は、木下と博報堂、TBS(当時は東京放送)が共同出資して設立した木下恵介プロダクションで、「喜びも悲しみも幾歳月」(1965)以降は松竹が共同制作。

1 10/2(水)3:00pm 10/14(日)4:00pm

木下恵介アワー わが子は他人 第一回 (25分・16mm・カラー)

1974年4月3日-9月25日(26回)放映の第1回。第二次ベビーブームの頃に多発した赤ん坊取り違え事件のドラマ化。一人息子の小学校入学式を目前に控えた福山家は、健康診断で判明した血液型から、親子の血縁に疑問を持ち始める。「木下恵介アワー」の最後を飾るシリーズとなった。

74(木下恵介プロ=TBS) 木下恵介 田向正健 渡辺浩美 出川三男 木下忠司 松山省二 音無美紀子、小夜福子、杉浦直樹、林美智子、喜久川清、春田和秀、吉田友紀、矢島正明

花咲く港(82分・35mm・白黒)

当時評判になっていた菊田一夫の大衆演劇の映画化で、表向きには増産奨励の国策映画だが、善意に満ちた港町の人々が二人のベテランを愛国心の渦へと巻き込むさまは痛烈な風刺をはらんでいる。木下は、この作品で同年デビューの黒澤明と共に山中貞雄賞を受賞。撮影の楠田浩之にとっても第1作で、以後24年に及ぶ長いコンビの幕開けとなった。

43(松竹大船) 木下恵介 菊田一夫 津路嘉郎 楠田浩之 木下忠司 安住盛 小澤栄太郎、上原謙、水戸光子、笠智衆、東野英治郎、坂本武、半澤洋介、横美佐子、東山千栄子、村瀬幸子、河原侃二

2 10/3(木)3:00pm 10/13(土)4:00pm

木下恵介アワー たんとんとん 第一回 (25分・16mm・カラー)

1971年6月1日-11月30日(26回)放映の第1回。大阪弁が抜けきれないしつかり者の母親と、父の後を継いで大工になろうと奮闘する一本気な息子とが織りなす人情喜劇。年下の若妻とそりが合わない気弱な大工役の杉浦をはじめ、二人を支える脇役陣も趣向に富んでいる。

71(松竹=木下恵介プロ=TBS) 木下恵介 山田太一 渡辺浩美 出川三男 木下忠司 ミヤコ蝶々、森田健作、杉浦直樹、花沢徳衛、中野誠也、井口恭子、松岡つとむ

生きてゐる孫六(89分・35mm・白黒)

親譲りの名刀孫六の鑑定を求めて三方ヶ原の古戦場を訪れた青年(上原)が、同様に孫六を求めて来た軍医(細川)や村の旧家の跡取り息子(原)と出会い巻き起こす騒動を、因襲に縛られた村の解放と増産奨励という国策的テーマの許す限りで軽快な喜劇に仕立てている。300頭の馬を使った冒頭の勇壮な合戦場面が豪華。

43(松竹大船) 木下恵介 楠田浩之 木下忠司 早乙女光 上原謙、葛城文子、吉川満子、原保美、山崎くるみ、細川俊夫、河村黎吉、宮子徳三郎、河野敏子、坂本武、岡村文子、前畑正美

3 9/30(日)1:00pm 10/17(水)7:00pm 10/23(火)3:00pm

木下恵介アワー 二人の世界 第一回 (25分・16mm・カラー)

1970年12月1日-71年5月25日(26回)放映の第1回。「3人家族」(1968-69)の人気主演コンビが再び組んだシリーズ。イタリア人歌手のコンサート会場で偶然に出会い、ロマンスを芽生えさせる二人が、望遠レンズの活用や類似ショットの反復などで、見事に周囲から視覚的に浮かび上がっている。

70(松竹=木下恵介プロ=TBS) 木下恵介 山田太一 小原治夫 出川三男 木下忠司 竹脇無我、栗原小巻、あおい輝彦、山内明、文野朋子、近藤洋介、アルマン・ロメオ、三島雅夫

お嬢さん乾杯(89分・35mm・白黒)

没落華族の令嬢(原)が家の窮状を救うため、町工場の経営者(佐野)と見合いをし、互いに惚れ合うまでを、アメリカ映画を思わせる洒落なタッチで描く。バレエとボクシング、ショパンとよさこい節といった対比による階級差の強調、各シーンに欠かさず付けられる落ちなどに、喜劇映画への意欲的な取り組みがうかがわれる。

49(松竹大船) 木下恵介 新藤兼人 楠田浩之 小島基司 木下忠司 佐野周二、原節子、青山杉作、藤間房子、永田清、東山千栄子、森川まさみ、増田順二、佐田啓二、佐藤成子、坂本武、村瀬幸子

4 9/30(日)4:00pm 10/16(火)3:00pm 10/24(日)7:00pm

木下恵介アワー おやじ太鼓 第一回 (25分・16mm・白黒/カラー)

1968年1月16日-10月8日(39回)放映の第1回。占領期製作の映画『破れ太鼓』のドラマ化で、第12回からはカラー放映となった。映画版の父親は、批判されるべき封建的な人物として劇的に誇張されていたが、テレビ版ではむしろ時代錯誤性からにじみ出る愛嬌が勝っており、約20年の歳月の差異を考えさせる。

68(松竹=木下恵介プロ=TBS) 木下恵介 桜井秀雄 荒野浩一 出川三男 木下忠司 進藤英太郎、風見章子、園井啓介、津坂匡章、あおい輝彦、西川宏、高梨木聖、沢田雅美、竹脇無我、香山美子

破れ太鼓(108分・35mm・白黒)

占領期の時代劇減産のため活躍の場を失っていた重鎮・阪妻を、木下は「破れ太鼓」とあだ名される昔気質の父親に起用し、大時代な身振りもろとも喜劇のうちに活かした。表向きのテーマは家庭の民主化だが、妻や子どもに家出され、会社まで潰した失意の父をねぎらう次男(木下忠司)を始め、家族はみな温かい優しさに溢れている。

49(松竹京都) 木下恵介 小林正樹 楠田浩之 小島基司 木下忠司 阪妻三郎、村瀬幸子、森雅之、大泉滉、小林トシ子、桂木洋子、大塚正義、澤村貞子、宇野重吉、滝澤修、東山千栄子

5 10/9(火)7:00pm 10/26(金)3:00pm

木下恵介劇場 記念樹 第一話 花に浮ぶ人 (26分・16mm・白黒)

1966年4月5日-67年2月14日(46回)放映の第1回。戦後、横浜の養護施設で育った子供たちが、15年後に恩師である保母に再会して若者の悩みをぶつけていく、1話完結の人気シリーズ。15年前に植えて見事に開花した桜の樹が、子供たちの成長過程を肯定する象徴になっている。

66(松竹テレビ室=木下恵介プロ=TBS) 木下恵介 山田太一 山田義典 渡辺浩之 猪俣邦弘 木下忠司 馬淵清子、高杉早苗、三戸部すえ、長谷川哲夫、ジェリー伊藤、有川博、田村正和

カルメン故郷に帰る(86分・35mm・カラー)

フジカラーによる国産オール・カラー長篇劇映画第1号で、日本映画監督協会による企画に木下が抜擢された。十分な光量を得るため晴天下のオール・ロケが不可欠で、リリー・カルメン(高峰)の派手な衣裳は、カラーの魅力を発揮すると同時に、芸術家気取りで信州に里帰りする気のいいストリッパーという役柄も表現している。

51(松竹大船) 木下恵介 楠田浩之 小島基司、平高主計 木下忠司、黛敏郎 高峰秀子、佐野周二、笠智衆、井川邦子、坂本武、見明凡太郎、小林トシ子、三井弘次、望月美恵子、小沢栄、佐田啓二

6 10/5(金)3:00pm 10/16(火)7:00pm 10/28(日)4:00pm

カルメン故郷に帰る [白黒版] (85分・16mm・白黒)

このモノクロ版は、当時のカラー・フィルムの能力、全国配給に要するプリント数などを勘案して、カラー版とは別途に撮影された(別の作品)である。カラー版には存在しない場面や異なる演出もあり、木下作品を研究する上でも貴重なものとなっている。

51(松竹大船) 木下恵介 楠田浩之 小島基司、平高主計 木下忠司、黛敏郎 高峰秀子、佐野周二、笠智衆、井川邦子、坂本武、見明凡太郎、小林トシ子、三井弘次、望月美恵子、小沢栄、佐田啓二

7 10/4(水)3:00pm 10/14(日)1:00pm

木下恵介アワー あしたからの恋 第一回 (25分・16mm・カラー)

1970年4月21日-11月24日(32回)放映の第1回。「おやじ太鼓」同様、進藤英太郎が三人の子供たちの色恋沙汰に気をもむ頑固親父に据えた人情喜劇。和菓子屋という家内工業的職業=職場が、女性たちのお茶を媒介とした下町コミュニケーション=家庭空間へとなめらかに繋がっている。

70(松竹=木下恵介プロ=TBS) 木下恵介 楠田芳子 小原治夫 出川三男 木下忠司 進藤英太郎、山岡久乃、尾崎奈々、林隆三、大出俊、小阪一也、岡崎友紀

カルメン純情す(103分・35mm・白黒)

パリ帰りのエッセ前衛画家(若原)にカルメン(高峰)が惚れる風刺喜劇。再軍備の嵐潮に乗じて代議士の娘と結婚しようとする画家に翻弄されながらも、無垢さを失わないカルメンが深い愛情をもって描かれる。全ショットでカメラを傾ける前衛的な手法で挑んだ野心作である。

52(松竹大船) 木下恵介 楠田浩之 浜田辰雄 黛敏郎、木下忠司 高峰秀子、若原雅夫、淡島千景、小林トシ子、三好榮子、東山千栄子、村瀬幸子、坂本武

8 10/6(土)1:00pm 10/18(木)7:00pm 10/24(日)3:00pm

木下恵介劇場 喜びも悲しみも幾歳月 第一回 (26分・16mm・白黒)

1965年4月6日-9月28日(26回)放映の第1回。木下が1957年に監督したヒット映画のドラマ化。昭和7年、第一次上海事変が勃発する中、父の葬儀を終え新妻きよ子(松本)を連れて観音崎灯台に戻った有沢四郎(大辻)が、波瀾万丈の駐在人生を歩み出す。

65(松竹テレビ室=TBS) 木下恵介 今井雄二郎 楠田芳子 渡辺浩之 木村芳男 木下忠司 田代二郎、松本典子、佐野周二、森幹太、木村俊恵、川上夏代

風前の灯(79分・35mm・白黒)

狭苦しい一軒家を舞台に、家長のつとめさん(田村)がため込む金を狙って出入りする家族と、強盗に入ろうとしてなかなか入れない不良たちが繰り広げる皮肉なコメディ。高峰と佐田が、従来の木下作品とは違って変わって強欲な夫婦を演じる。セルフ・パロディとして、「喜びも悲しみも幾歳月」(1957)の主題歌も流される。

57(松竹大船) 木下恵介 楠田浩之 梅田千代夫 木下忠司 高峰秀子、佐田啓二、田村秋子、南原伸二、五月女殊久、小林トシ子、田中晋二、伊藤弘子、有沢正子

9 10/5(金)7:00pm 10/13(土)1:00pm 10/25(木)3:00pm

木下恵介アワー 思い橋 第一回 (25分・16mm・カラー)

1973年4月3日-9月25日(26回)放映の第1回。秩父の温泉旅館を営む女将とその二人の義理の娘が、名所の橋から投身自殺を試みて選ばれた娘や、東京から旅館買収の下調べに来た男たちと出会うことによって、自分たちに訪れる変化に向き合っていくドラマ。

73(木下恵介プロ=TBS) 木下恵介 中村登 高橋玄洋 渡辺浩之 猪俣邦弘 木下忠司 淡島千景、藤岡弘、松坂慶子、仲雅美、上村香子、荒谷公之、望月真理子

春の夢 (103分・35mm・カラー)

焼芋屋の老人(笠)が、製菓会社の社長・奥平庄兵衛(小沢)宅で倒れたことをきっかけに、屋敷のすべての者の歯車が狂っていくコメディ。「春の夢」らしくフィルムターでピンクの色彩を施し、あえて人工的な画面を狙った華やかな正月映画だが、安岡守平への目配りとしてデモ隊と警官の乱闘シーンが挿入されている。

'60(松竹大船)◎◎木下恵介◎楠田浩之◎梅田千代夫◎木下忠司◎岡田茉莉子、久我美子、佐野周二、笠智衆、小沢栄太郎、荒木道子、丹阿弥谷津子、東山千栄子、山本豊三、川津祐介、十朱幸代

10 10/6(土)4:00pm 10/19(金)3:00pm 10/23(火)7:00pm

木下恵介アワー 3人家族 第一回

(25分・16mm・カラー)

1968年10月15日—69年4月15日(27回)放映の第1回。2組の「3人家族」の交わりを軽快に描いた人気シリーズ。現在見ると、父と息子との素直な情愛の描写に新鮮さが感じられる。夜、三島と竹脇が枕を並べて言葉を交わす場面は、小津の『晩春』(1949)を想起させて印象深い。

'68(松竹=木下恵介プロ=TBS)◎◎木下恵介◎山田太一◎荒野諒一◎猪俣邦弘◎木下忠司◎竹脇無我、栗原小巻、おおい輝彦、三島雅夫、沢田雅美、近藤洋介(レター)矢島正明

今年の恋 (82分・35mm・白黒)

高校生の一郎(石川)と光(田村)は仲良かったが、成績がよくない。銀座の料理屋の看板娘(岡田)と大会社の専務の息子(吉田)は、それぞれの弟の出来の悪さを悪友のせいと考へ、互いに敵意を募つて。意地を張り合つてなかなか素直になれない二人がついに結ばれるという、正月映画らしいロマンティック・コメディ。

'62(松竹大船)◎◎木下恵介◎楠田浩之、成島東一郎◎梅田千代夫◎木下忠司◎岡田茉莉子、吉田輝雄、田村正和、石川竜二、峯京子、三木のり平、東山千栄子、浪花千栄子、三遊亭円遊、野々村潔

11 10/9(火)3:00pm 10/21(日)4:00pm

木下恵介アワー 兄弟 第一回

(25分・16mm・カラー)

1969年10月21日—70年4月14日(26回)放映の第1回。「2人の兄弟とその恋とその家族の物語」。テレビ的とも言える、ズーム・ショットの自在な使用やポップスの挿入による転調、また矢島の抑えた口調のナレーションによる効率的な内面描写など、木下の技巧が冴え渡っている。

'69(松竹=木下恵介プロ=TBS)◎◎木下恵介◎山田太一◎小原治夫◎猪俣邦弘◎木下忠司◎北村和夫、津島恵子、津坂匡章、おおい輝彦、秋山ゆり、沢田雅美(レター)矢島正明

歌え若人達 (86分・35mm・カラー)

現役の大学生・松川勉を主演に抜擢し、大学の寮に暮らす4人の青年たちの青春を綴る。学生生活を謳歌する金持ちの息子・宮本(川津)と、アルバイトに疲れ果てた苦学生・森(松川)の運命が突然逆転することで持ち上がる騒動を軸に、彼らの女友達や郷里の母、祖母などが加わり、にぎやかな正月映画となっている。

'63(松竹大船)◎木下恵介◎山田太一◎楠田浩之◎梅田千代夫◎木下忠司◎松川勉、川津祐介、三上真一郎、山本圭、若下志麻、倍賞千恵子、富士真奈美、東山千栄子、三島雅夫、柳家金語楼、武智豊子

12 10/7(日)1:00pm 10/25(木)7:00pm

木下恵介劇場 今年の恋 第一回-第四回

(計104分・16mm・白黒)

1967年2月21日—4月11日(8回)放映のシリーズ。木下監督・脚本の1962年の同名映画のドラマ化。物語は映画版の失恋などのサブエピソードが掘り下げられ、毎回ヤマ場を作るテレビ的な構成となっている。

'67(松竹=木下恵介プロ=TBS)◎◎木下恵介◎桜井秀雄◎楠田芳子◎保積善三郎◎猪俣邦弘◎木下忠司◎加藤剛、栗原小巻、東山千栄子、津坂匡章、渡辺篤史、三島雅夫、永井智雄、東野英治郎、三戸部スエ、野村昭子

13 10/7(日)4:00pm 10/26(金)7:00pm

木下恵介劇場 今年の恋

第五回—第八回(最終回)(計103分・16mm・白黒)

'67(松竹=木下恵介プロ=TBS)◎◎木下恵介◎桜井秀雄◎楠田芳子◎保積善三郎◎猪俣邦弘◎木下忠司◎加藤剛、栗原小巻、東山千栄子、津坂匡章、渡辺篤史、三島雅夫、永井智雄、三戸部スエ、野村昭子、木村俊恵

14 10/2(火)7:00pm 10/20(土)1:00pm

木下恵介アワー もがり笛 第一回-第四回

(計104分・16mm・白黒)

1967年10月17日—68年1月9日(13回)放映のシリーズ。ジョージ・エリオットの『サイラス・マーナー』に想を得た、四半世紀をかけて人間への信頼を取り戻していく男の物語。毎回最後には「虎落(もがり)笛」の季節が入った星野立子の俳句が幕付きで詠まれる。主人公曾我一平(江原)は戦争中に肉親や財産を失って絶望に陥るが、吹雪の晩に出会った孤児の女の子を保護し育てる中で自身の救済も見出していく。

'67(松竹=木下恵介プロ=TBS)◎◎木下恵介◎川頭義郎◎渡辺浩◎猪俣邦弘◎木下忠司◎星野立子◎江原真二郎、花沢徳衛、野々村潔、有川博、望月優子、宝生あやこ、赤座美代子、大森暁美、織賀邦江、町田博子

15 10/3(水)7:00pm 10/20(土)4:00pm

木下恵介アワー もがり笛 第五回-第八回

(計104分・16mm・白黒)

'67(松竹=木下恵介プロ=TBS)◎◎木下恵介◎川頭義郎、中新井和夫(第八回)◎渡辺浩◎猪俣邦弘◎木下忠司◎星野立子◎江原真二郎、望月優子、長浜藤夫、穂高稔、吉行和子、大森暁美、市川寿美礼、近松麗江

16 10/4(木)7:00pm 10/21(日)1:00pm

木下恵介アワー もがり笛

第九回—第十三回(最終回)

(計129分・16mm・白黒)

'67-'68(松竹=木下恵介プロ=TBS)◎◎木下恵介◎川頭義郎◎渡辺浩◎猪俣邦弘◎木下忠司◎星野立子◎江原真二郎、西尾三枝子、竹脇無我、中原ひとみ、長藤美夫、穂高稔、大森暁美、井川邦子、寺島信子、近松麗江

◆赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ

「赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ」は、1979年2月5日から7月30日まで、テレビ朝日系列で毎週月曜日に放映された、30分のテレビアニメ・シリーズ。木下は全体の監修を行い、弟の木下忠司・関根光致子夫妻のプロダクション・K&Sが制作。アニメーション製作はシンエイ動画。1970年代にファミリー層の支持を集めた「アルプスの少女ハイジ」(1974)や「まんが日本昔ばなし」(1975-1994)といった、いわゆる名作アニメ・シリーズの流れの中にあるもので、各話の原作は大正期に創刊された児童文学雑誌「赤い鳥」(1918-1936)を始めとする童話から採られている。

17 10/10(水)3:00pm 10/19(金)7:00pm

赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ 1-4

天までとどけ (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎吉田絃二郎◎原田祐義◎若杉光夫(作画)スタジオ古留美◎川本征平◎安田正則、小杉勇、杉本孝次、長慶子(レター)南風洋子

牛をつないだ橋の木 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎新美南吉◎小泉謙三◎広瀬浜吉◎窪田正史、中村光子◎伊藤主計◎飯塚昭三、はせさし、山田俊司、田中崇、永井一郎、津田延代

ふしぎな窓 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎西條八十◎原田芝山◎山田太一(作画)亜細亜堂◎川本征平◎田口精一、肉倉正男、松田史朗、小牧ゆう(レター)鈴木智

泣いた赤おに (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎浜田広介◎楠部大吉郎◎久木沢玲奈◎島田正治◎西尾徳、伊武雅之、加藤修、田中崇

18 10/10(水)7:00pm 10/18(木)3:00pm

赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ 5-8

天にのぼる話 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎火野葦平◎原田吉治◎久木沢玲奈(作画)亜細亜堂◎沼井一◎肝付兼太、小川登志夫、三ツ矢雄二、八奈見乗児、田の中勇、井上和彦、坪井章子

牛女 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎小川未明◎矢吹公郎(作画)スタジオユニオ◎瑞名貴男◎沼井信朗◎富山敬、水島裕、北川国彦、山田俊司、矢田耕司、峰恵研(レター)河内桃子

シャボン玉 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎豊島与志雄◎吉田しげつ◎広瀬浜吉(作画)トミプロダクション◎富永貞義◎伊藤政洋◎小原乃梨子、増岡弘、山田俊司、永井一郎、津田延代、佐藤正治

鬼の角 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎泉鏡花◎西牧ひでお◎かがみおさむ(作画)スタジオ古留美◎山崎猛◎川本征平◎永井一郎、丸山裕子、山田俊司、吉田理保子、雨森雅司、坂井志満

19 10/11(木)3:00pm 10/27(土)4:00pm

赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ 9-12

蜘蛛の糸 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎芥川龍之介◎西牧ひでお◎松山善三(作画)スタジオ古留美◎山崎猛◎伊沼一平(レター)鈴木智

お馬 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎坪田譲治◎西牧ひでお◎かがみおさむ、久木沢玲奈(作画)スタジオ古留美◎山崎猛◎宮川一男◎浜村純、永井一郎、八奈見乗児、山田俊司

赤いろうそくと人魚 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎小川未明◎大関雅章(作画)スタジオメイツ◎原田小泉◎伊藤政洋◎里居正美、入江杏子、水原英子、白石珠江、山本哲也(レター)南風洋子

春を告げる鳥 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎宇野浩二◎楠部大吉郎◎広瀬浜吉◎川本征平◎増山江威子、内海敏彦、北川国彦

20 10/11(木)7:00pm 10/17(水)3:00pm

赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ 13-16

虎の子大発見 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎久留島武彦◎荒木伸吾◎わらびた(作画)荒木プロダクション◎原田野美◎伊藤政洋◎永井一郎、真家堂子、増岡弘、緒方賢一、田の中勇、宮崎恵子

野ばら (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎小川未明◎原田大竹伸一◎吉田一夫◎鈴木智、矢野勇夫、田口精一(レター)南風洋子

古事記物語より 満潮の玉・干潮の玉

(24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎鈴木三重吉◎原田中村英一◎久木沢玲奈◎宮内淳吉◎松島みのり、井上和彦、玄田哲章

見捨てられた仔犬 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎下村千秋◎大関雅章◎若杉光夫◎原田大宅幸男、一川孝久◎伊藤政洋◎戸谷玄、牧野義介、棟方巴里爾、稲垣隆史(レター)南風洋子

21 10/12(金)3:00pm 10/27(土)1:00pm

赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ 17-21

なくなり物語 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎西條八十◎向中野義雄◎三田純市◎森下圭介、原完治◎沼井一◎井上真樹夫、大竹宏、白石冬美、野沢雅子、田の中勇、緒方賢一(画)入船亭扇橋

ろうそくをつぐ話 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎大木惇夫◎原田前田康生◎吉田一夫(作画)ザイン◎川本征平◎中西妙子、徳丸完、北村弘一

走れメロス (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎太宰治◎吉田しげつ◎吉田一夫(作画)シンエイ動画◎原田中村英一◎沼井信朗、矢島みよ子◎市川治、山田俊司、田中崇、緒方賢一(レター)中西妙子

北原白秋詩集より 母子星 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎北原白秋◎原田野島進◎松山善三◎田中資幸◎山本圭子、加藤修、田の中勇、佐藤正治

風の母子 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎石森延男◎森脇真琴◎折戸伸弘◎春貴健司、有原誠治◎矢島みよ子、藤井美千代◎増山江威子、潘恵子、矢田耕司、水島裕、政宗一成

22 10/12(金)7:00pm 10/28(日)1:00pm

赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ 22-26

五右衛門風 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎千葉省三◎福富博◎かがみおさむ◎大竹伸一◎伊藤政洋◎石丸博也、八奈見乗児、野沢雅子、坂井志満、加藤修、山田俊司、古谷徹

(シナリオツネより)きつねの狐要信

(24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎佐藤春夫◎原田小泉謙三◎久木沢玲奈◎牧野光成◎神谷明、北村弘一(レター)中西妙子

杜子春 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎芥川龍之介◎三ツ矢雄二、田の中勇、折戸伸弘◎謝金達◎美娜◎石原良、矢島みよ子◎永井一郎、川島千代子、飯塚昭三、加藤修、田中崇、戸谷公次

ごんぎつね (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎新美南吉◎出崎哲◎かがみおさむ(作画)マックハウス◎獅子美◎沼井信朗◎三輪勝彦、雨森雅司、宮内幸平、坂井志満、佐藤正治

名人伝 (24分・16mm・カラー)

'79(K&S)監修木下恵介◎中島敦◎もとひら了◎吉田一夫◎本多敏行◎沼井一、沼井信朗、矢島みよ子◎永井一郎、緒方賢一、柴田秀勝、八奈見乗児、北川国彦、山田俊司

月	火	水	木	金	土	日
9月	25	26	27	28	29	30
10月	1	2	3	4	5	6
10月	7	8	9	10	11	12
10月	13	14	15	16	17	18
10月	19	20	21	22	23	24
10月	25	26	27	28	29	30

大ホール

第34回 PFF ぴあフィルムフェスティバル

2012年9月18日(金)〜28日(金)
コンペティション部門「PFFアワード2012」では平均年齢23.6歳の才能溢れる16作品を上映!招待作品部門では、イギリスの名匠マイケル・パウエル監督の『赤い靴』『天国への階段』を始めとする名作5本、森田芳光監督の『8mm』作品集、中村獅童が自主映画監督を演じた『エンドロール〜伝説の父〜』など、PFFでしか見られない、多彩なプログラムが展開されます。

pff.jp/34th/
主催: PFFパートナーズ(びあ, ホリプロ, 日活) 公益財団法人ユニジャパン
共催: 東京国立近代美術館フィルムセンター
特別助成: 一般社団法人 映画演劇文化協会
特別協賛: セガサミーグループ
後援: 一般社団法人 日本映画製作者連盟 NPO法人 映像産業振興機構 (VIPO) 協同組合 日本映画監督協会
協力: 早稲田大学

関連企画

木下恵介生誕100年祭

主催: 松竹, 東京フィルメックス
11月23日(金)〜12月7日(金)
会場: 東劇(東銀座)
TEL:03-3541-2711

今年、カンヌ、ヴェネチア、世界中から賞賛を浴びたデジタルリマスター2作品の日本凱旋上映が決定!
『榎山節考』デジタルリマスター (カンヌ国際映画祭クラシック部門選出)
『カルメン故郷に帰る』デジタルリマスター (ヴェネチア国際映画祭クラシック部門選出)

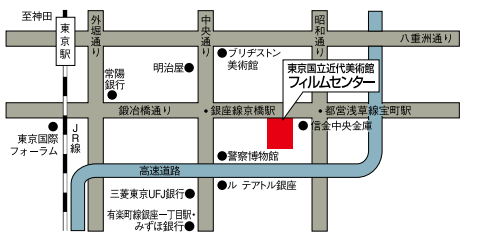
ほか、全49作より24作品を厳選上映します。
・タイムテーブルなど詳細は、当該チラシ、下記ホームページをご覧ください。
木下恵介生誕100年公式HP: www.kinoshita100.jp
東京フィルメックス公式HP: www.filmex.net

図書室カレンダー

赤字は休室日

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

図書室(4階)
開室=火曜日-土曜日(午後0時30分-午後6時30分/入室は午後6時
まで) 閉室=休館日および日曜日・祝日



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
▼交通:
東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハロ-ダイヤル03-5777-8600
NFCホームページ:
<http://www.momat.go.jp/>
NFC携帯電話ホームページ:
<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

展示室(7階)

企画展

日活映画の100年 日本映画の100年
Nikkatsu 100: A Century of Japanese Cinema
8月14日(金)〜12月23日(日)
*月曜日および9月10日(月)から9月17日(月), 10月29日(月)から11月5日(月)は休室
*詳細は当該チラシをご覧ください。

常設展

企画展に併設
NFCコレクションでみる
日本映画の歴史
Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFC Non-film Collection

開室時間=午前11時-午後6時30分
(入場は午後6時まで)
料金(企画展・常設展共通)=一般200円(100円)
/大学生・シニア70円(40円) /高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料
*()内は20名以上の団体料金です。
*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。
*フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金に適用されます。

研究員による常設展ギャラリートーク
毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)
今月の開催日: 10月6日

表紙: (中央)木下恵介監督 (左上から右へ)風前の灯、生きてある孫六、花咲く港、破れ太鼓、二人の世界、お嬢さん乾杯、おやじ太鼓、カルメン故郷に帰る